2015年度
第2四半期決算及び通期業績見通し
説明資料

星光PMC株式会社（東証1部 4963）
2015年8月26日

目次

✧ Ⅰ．事業内容、当期の事業環境　P　2～4

✧ Ⅱ．2015年度 第2四半期決算　P　5～8

✧ Ⅲ．2015年度 通期業績見通し　P　9～10

✧ Ⅳ．事業別動向　P　11～18

✧ Ⅴ．中期経営計画　P　19

＜予想に関する注意事項＞
本資料では、情報の提供を目的としており、いかなる勧誘行為を行うものではございません。
業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき、当社の経営者が判断した見通しでございますが、
実際の売上高及び利益は、記載している予想数値とは大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。
当社は、業績見通しの正確性・完全性に関する責任を負うものではございません。
ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。
本資料に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負うものではございません。

Ⅰ．事業内容

➢ 製紙用薬品事業

サイズ剤
紙力増強剤
印刷適性向上剤
製紙用補助薬品

⇨

<主な用途>
紙　新聞用紙
　　印刷・情報用紙
　　家庭紙 他

板紙　段ボール原紙
　　紙器用紙 他

➢ 樹脂事業

各種印刷インキ用樹脂
記録材料用樹脂

⇨

<主な用途>
オフセットインキ
新聞インキ
フレキソインキ
グラビアインキ
トナー 他

➢ 化成品事業(KJケミカルズ株式会社)

各種機能性モノマー

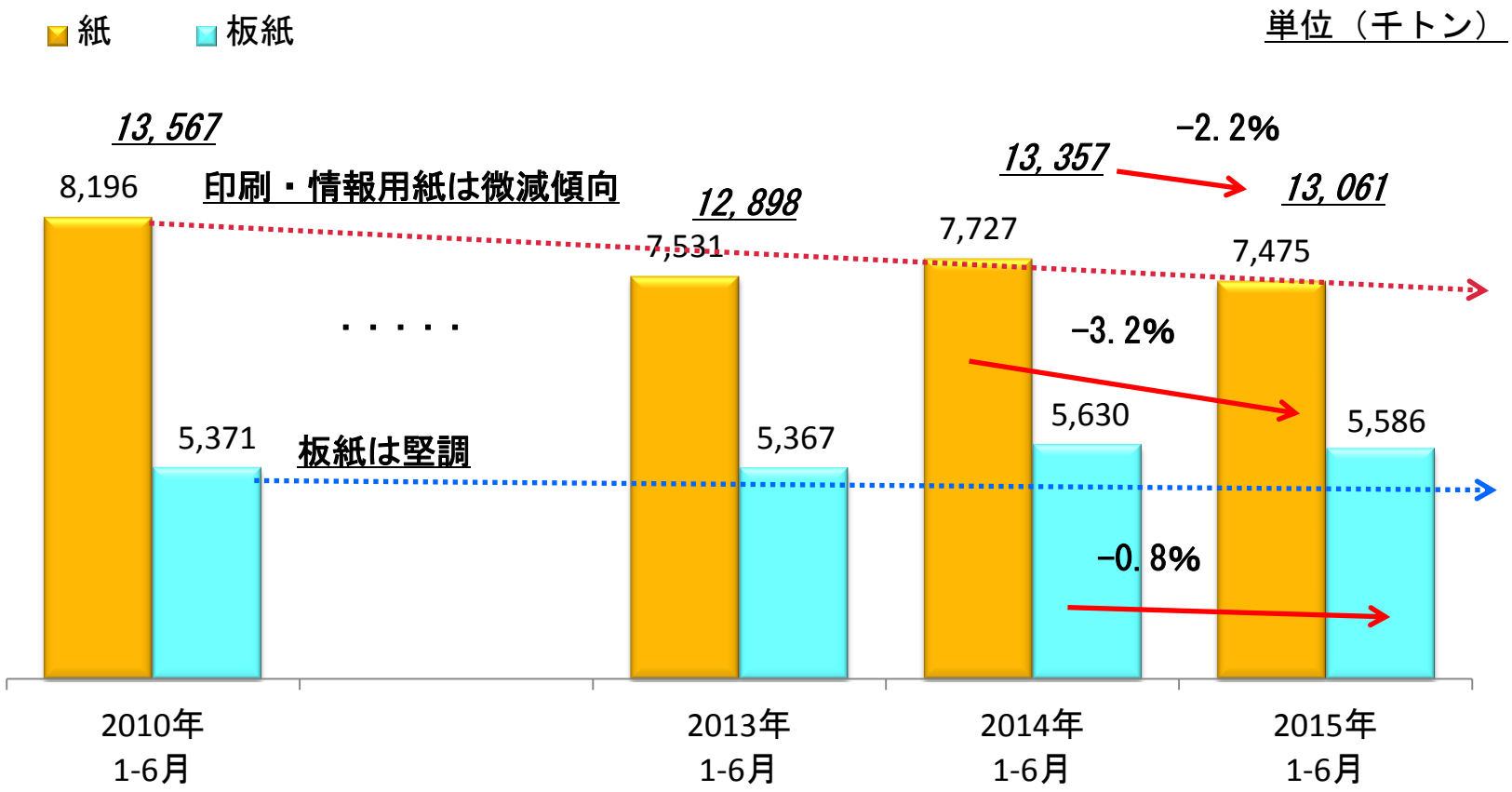
⇨

<主な用途>
木工用UVコート剤、水系塗料、
製紙用薬品、粘・接着剤、
石油掘削用ポリマー、
UVインキ、化粧品、電子材料 他

Ⅰ．当期の事業環境（１）製紙業界

- 2015年度上半期の国内紙・板紙生産量は、前年同期比-2.2%（紙-3.2%、板紙-0.8%）
- 特に紙（印刷・情報用紙など）は、2010年度比で-8.8%（年率-1.8%）の減少となっている。

▽紙・板紙生産数量（国内）

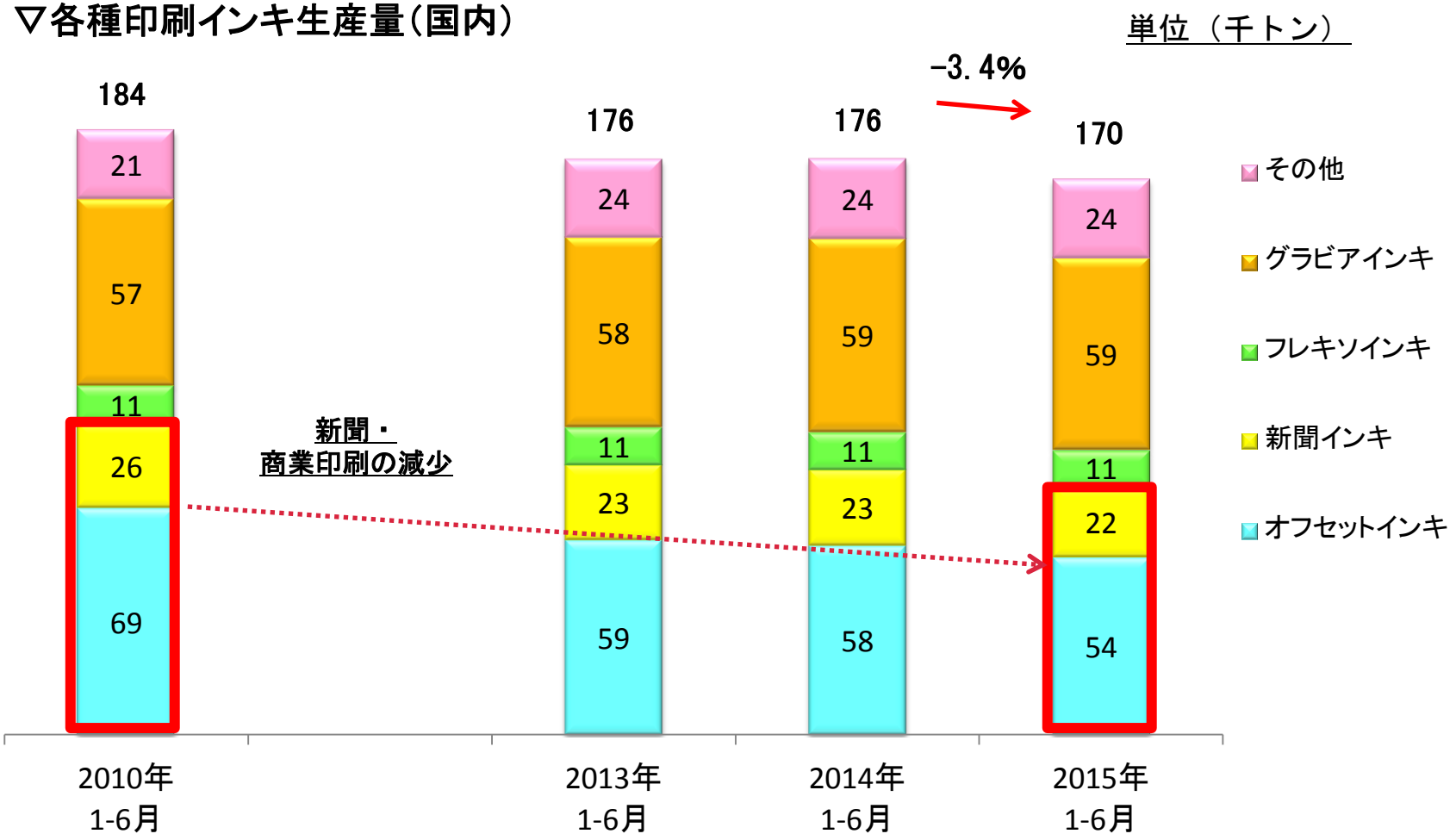


（出典：経済産業省生産動態統計）

Ⅰ．当期の事業環境（２）　印刷インキ業界

- 2015年度上半期の国内印刷インキ生産量は前年同期比-3.4%の減少
- 特にオフセット・新聞インキは、2010年度比で-19.5%（年率-4.2%）の減少となっている。

▽各種印刷インキ生産量（国内）

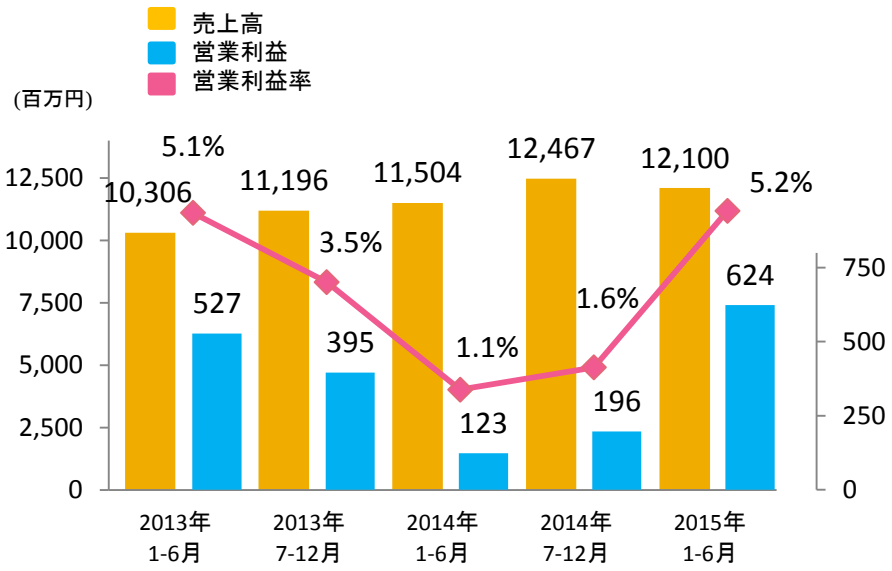


Ⅱ．2015年度 第2四半期決算 概況

（1）決算の概況（連結）

(百万円)	2014年度（1-6月）	2015年度（1-6月）		前年同期比	
	実績	直近公表値	実績	増減	増減率
売上高	11,504	12,330	12,100	+596	+5.2%
営業利益	123	430	624	+501	+404.6%
営業利益率	1.1%	3.5%	5.2%	-	-
経常利益	124	470	679	+555	+445.7%
経常利益率	1.1%	3.8%	5.6%	-	-
当期純利益	-265	420	532	+797	-
減価償却費	539	523	493	-46	-8.5%
設備投資	679	482	333	-346	-51.0%
研究開発費 (対売上高比率)	814 (7.1%)	930 (7.5%)	803 (6.6%)	-11	-1.4%

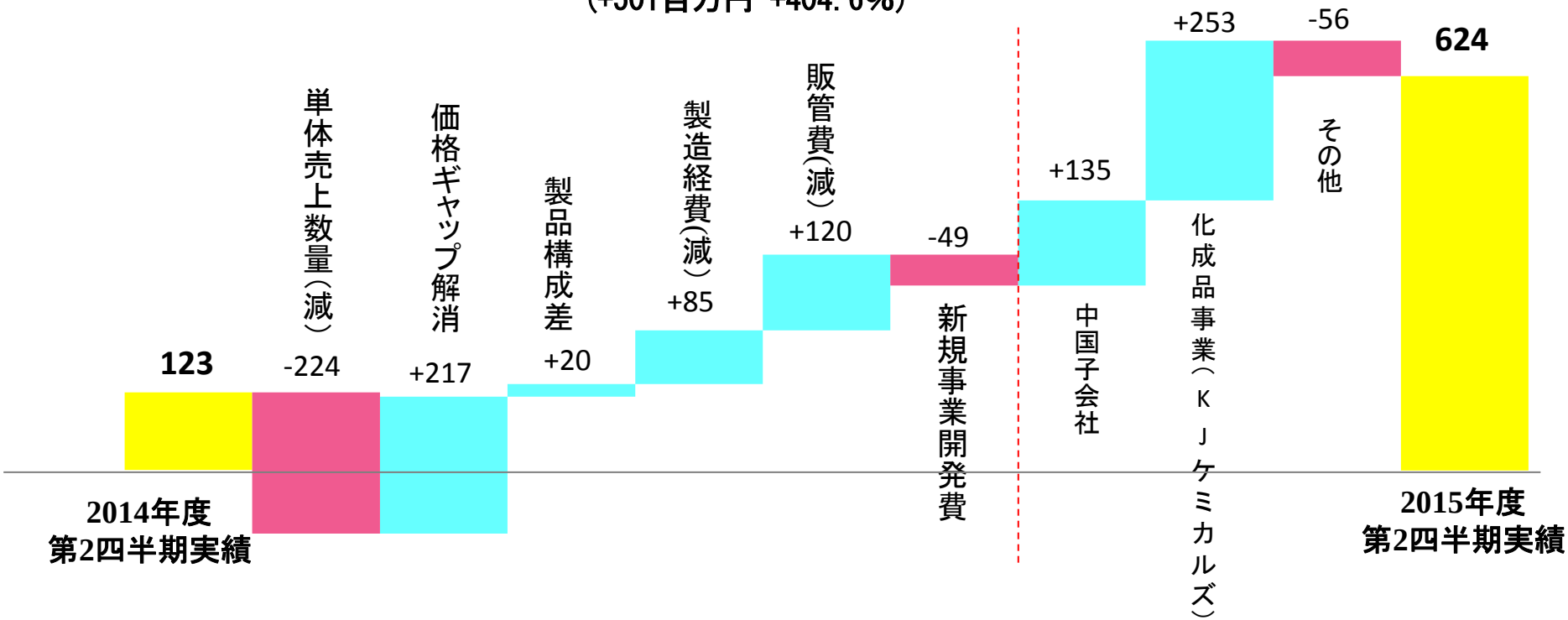
- 売上高は、国内は印刷インキ用樹脂を中心とした需要低迷の影響はあったものの、昨年4月よりグループに加わったKJケミカルズの売上が寄与して5.2%の増収。
- 営業利益は、中国子会社・化成品事業（KJケミカルズ）の大幅な収益改善に加え、昨年度の原料価格高騰により発生していた価格ギャップの解消、等により大幅な増益。



Ⅱ．2015年度 第2四半期決算 営業利益増減分析

（2）対前年同期比の営業利益増減

2014年（1-6月）123百万円 → 当第2四半期 624百万円
（+501百万円 +404.6%）



・マイナス要因
　ー 樹脂事業を中心とした単体売上数量減少 （-224M¥）
・プラス要因
　ー 昨年度発生した製品／原料価格のギャップの解消 （+217M¥）
　ー 製造経費、販管費の削減 （計+205M¥）
　ー 中国子会社の収益改善（+135M¥）
　ー 化成品事業（KJケミカルズ）の収益改善（+253M¥）

Ⅱ．2015年度 第2四半期決算　連結貸借対照表

（百万円） 科　　目	2014年度 12月末	2015年度 6月末	前年比
現金・預金	791	750	−41
受取手形・売掛金	11,176	9,760	−1,416
たな卸資産	3,917	3,902	−15
短期貸付金	1,813	2,548	+735
その他の流動資産	566	486	−80
流動資産 合計	**18,263**	**17,446**	**−817**
有形固定資産	9,423	9,080	−343
無形固定資産	69	84	+15
投資その他の資産	1,280	1,285	+5
固定資産 合計	**10,772**	**10,449**	**−323**
資産 合計	**29,035**	**27,895**	**−1,140**

科　　目	2014年度 12月末	2015年度 6月末	前年比
支払手形・買掛金	4,406	3,355	−1,051
短期借入金	1,100	1,100	±0
その他流動負債	2,300	1,951	−349
流動負債 合計	**7,806**	**6,406**	**−1,400**
退職給付引当金	−	−	−
退職給付に係る負債	796	923	+127
その他の固定負債	515	417	−98
固定負債 合計	**1,311**	**1,340**	**+29**
負債 合計	**9,117**	**7,746**	**−1,371**
資本金	2,000	2,000	±0
資本剰余金	1,566	1,566	±0
利益剰余金	16,285	16,468	+183
自己株式	−104	−104	±0
株主資本 合計	**19,747**	**19,929**	**+182**
為替換算調整勘定	144	148	+4
その他包括利益累計額	−170	−143	+27
その他包括利益累計額 合計	**25**	**5**	**−20**
純資産 合計	**19,918**	**20,149**	**+231**
負債及び純資産 合計	**29,035**	**27,895**	**−1,140**

自己資本比率	**67.9%**	**71.5%**

・KJケミカルズ買収資金を自己資金で賄ったが、引き続き実質無借金経営を継続。（短期貸付金＞短期借入金）
・前期末日が銀行休日であるために生じた入出金のズレに伴う総資産の一時的な増加が、通常に復したため、当期末の自己資本比率は71.5%へ上昇。

Ⅱ．2015年度 第2四半期決算 ＰＬ／連結キャッシュ・フロー

連結損益計算書

（百万円） 科　　目	2014年度 （1-6月）	2015年度 （1-6月）	前年 同期比
売上高	11,504	12,100	+596
売上原価	9,287	9,299	+12
売上総利益	**2,216**	**2,801**	**+585**
販売管理費	2,092	2,176	+84
営業利益	**123**	**624**	**+501**
金融支出	16	12	−4
為替差益	−49	18	+67
その他	33	23	−10
経常利益	**124**	**679**	**+555**
特別利益	464	258	−206
特別損失	746	169	−577
税金等調整前損益	−157	767	924
法人税等	104	218	+114
当期純利益	**−265**	**532**	**+797**

- 当期の営業活動によるキャッシュ・フローは、1,201百万円の資金の獲得。併せて当期は3月末に、CNF関連補助金267百万円の収入があった。
- 主たる支出項目である、設備投資、配当金支払を行った後の余剰資金が、短期貸付金及び現金の増減となって現れている。（ネットで673百万円の増加）

連結キャッシュ・フロー

（百万円）		2014年度 （1-6月）	2015年度 （1-6月）
営業活動による キャッシュ・フロー	税金等調整前当期純利益	−157	767
	減価償却費	544	492
	法人税等の支払額	−112	−133
	運転資本の増減額	407	217
	その他	90	−143
	計	**771**	**1,201**
投資活動による キャッシュ・フロー	有形固定資産の取得による支出	320	−512
	無形固定資産の取得による支出	−22	−34
	有形・無形固定資産の売却による収入	−2	8
	投資有価証券の取得による支出	−1,371	−2
	短期貸付金の純増減額（マイナスは増加）	1,415	−735
	その他（CNF補助金を含む）	0	211
	計	**−297**	**−1,065**
財務活動による キャッシュ・フロー	配当金の支払額	−92	−181
	その他	−1	−2
	計	**−93**	**−183**
現金および現金等価物に関わる換算差額		−15	6
現金および現金等価物の増減額		363	−40
現金および現金等価物の期首残高		448	790
現金および現金等価物の期末残高		812	750

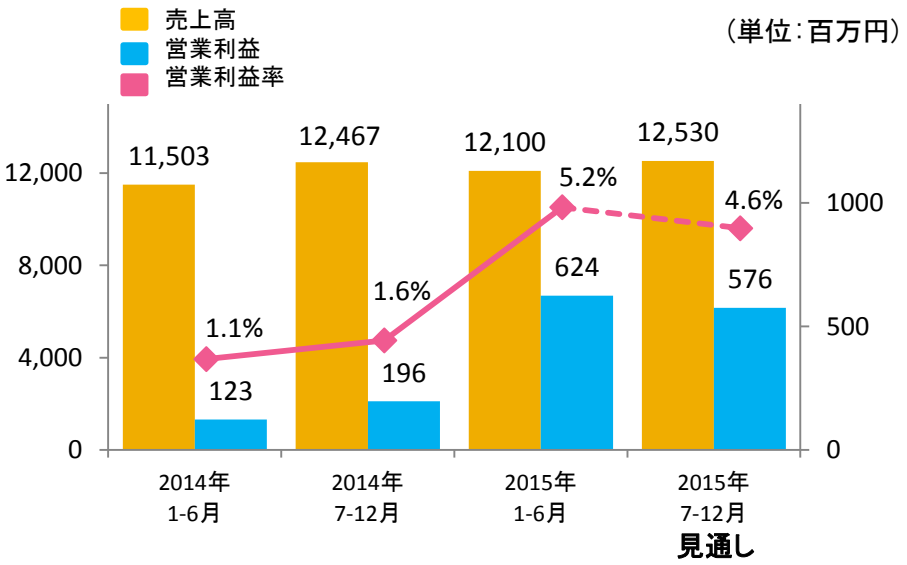
Ⅲ．2015年度 通期業績見通し　概況

（1）決算の概況（連結）

(百万円)	2014年度	2015年度		前年度比	
	実績	期初予想	最新予想	増減	増減率
売上高	23,970	26,350	24,630	+660	+2.8%
営業利益	319	1,000	1,200	+881	+275.1%
営業利益率	1.3%	3.8%	4.9%	-	-
経常利益	521	1,060	1,280	+759	+145.6%
経常利益率	2.2%	4.0%	5.2%	-	-
当期純利益	-18	830	980	+998	-
減価償却費	1,209	1,093	1,093	-116	-9.6%
設備投資	1,079	1,036	1,036	-43	-4.0%
研究開発費 (対売上高比率)	1,656 (6.9%)	1,866 (7.1%)	1,636 (6.6%)	-20	-1.2%

・売上高は、特に国内樹脂事業は上期に引き続き低調に推移するが、化成品事業売上の寄与、中国での拡販により、前年度比 2.8%の売上増を見込む。

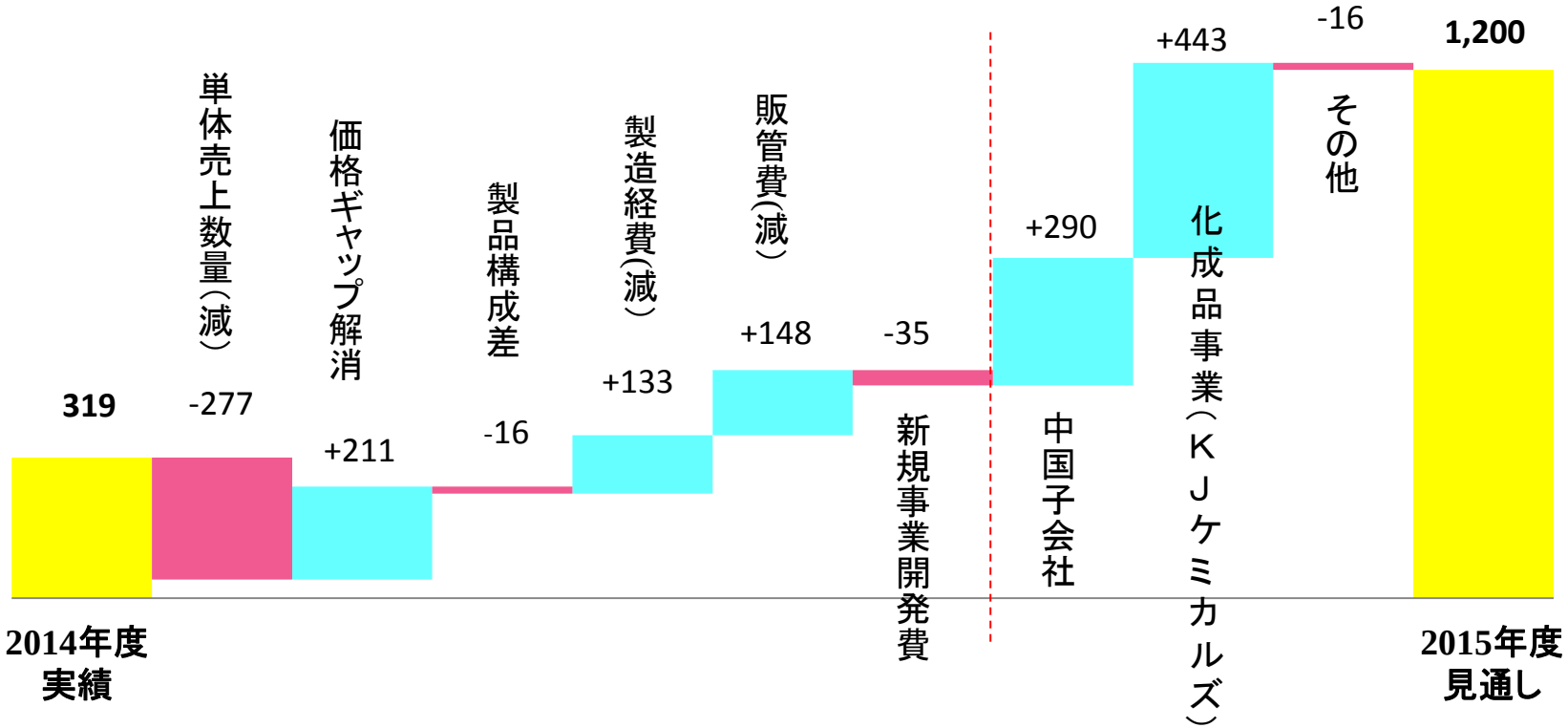
・営業利益は、堅調な国内製紙用薬品事業、中国子会社・化成品事業の収益改善により、大幅な増益を見込む。



Ⅲ．2015年度 通期業績見通し　営業利益増減分析

（2）営業利益増減内訳

2014年度実績　→　当期見通し
319百万円　→　1,200百万円（+881百万円 +275.1%）



・マイナス要因
　ー 樹脂事業を中心とした単体売上数量減少 （-277M¥）
・プラス要因
　ー　製造経費、販管費の削減 （計＋281M¥）
　ー　昨年度発生した製品／原料価格のギャップの解消 （+211M¥）
　ー　中国子会社の収益改善（+290M¥）
　ー　化成品事業（KJケミカルズ）の収益改善（+443M¥）

Ⅳ. 事業別動向（製紙用薬品事業）

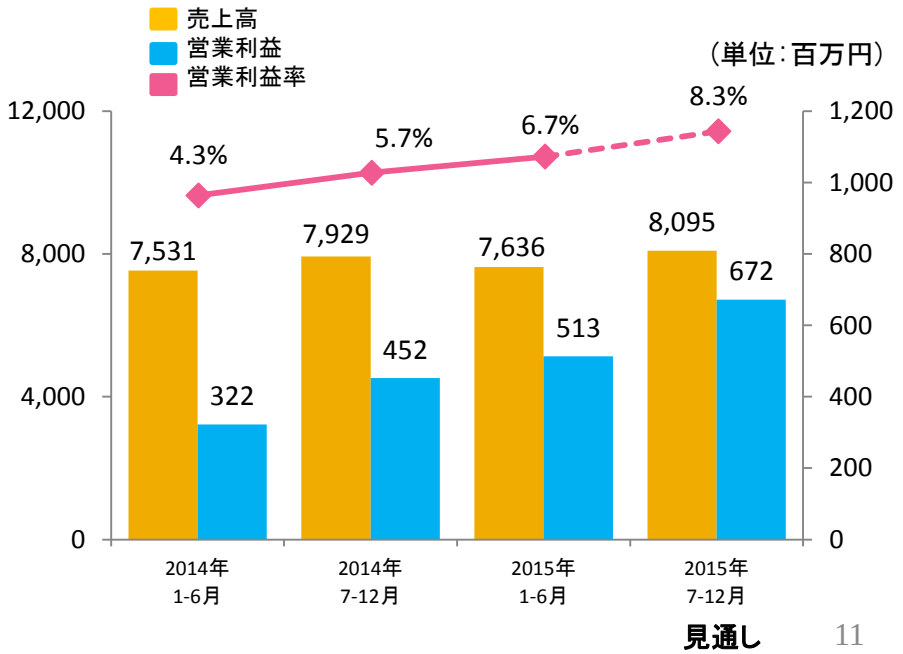
第2四半期実績						通期見通し			
(百万円)		2014年度（1−6月）	2015年度（1−6月）	増減	増減率	2014年度	2015年度	増減	増減率
売上高	国内	6,952	6,912	-40	-0.6%	14,184	13,993	-191	-1.3%
	海外	691	812	+121	+17.5%	1,515	1,928	+413	+27.3%
	調整	-112	-88	+24	-	-238	-190	+48	-
	合計	7,531	7,636	+105	+1.4%	15,460	15,731	+271	+1.8%
営業利益	国内	414	458	+44	+10.6%	881	1,069	+188	+21.3%
	海外	-93	42	+135	[黒字化]	-118	172	+290	[黒字化]
	調整	1	13	+12	-	11	-56	-67	-
	合計	322	513	+191	+59.1%	774	1,185	+411	+53.1%

上期業績ハイライト

- 売上高：国内は、原料価格値下がりを製品価格に反映したため微減。
  海外（中国）は、特定取引先への依存度を低めつつ、増収。
- 営業利益：国内は、コスト削減努力と、昨年度発生した原料価格高騰に伴う価格ギャップ解消により増益。
  海外は、コストダウン・合理化効果により増益。

2015年度見通し

- 売上高：国内は差別化製品による拡販を図るも、製品価格下落により微減。
  海外は、他社との提携を含む積極的な拡販策により増販基調が継続。
- 営業利益：国内は、コスト削減努力と、安定した原料環境を背景に堅調。
  海外は、拡販および着手済みのコスト削減策の効果発現により黒字拡大を見込む。



Ⅳ. 事業別動向（樹脂事業）

第2四半期実績				
(百万円)	2014年度（1−6月）	2015年度（1−6月）	増減	増減率
売上高	3,108	2,693	-415	-13.4%
営業利益	14	119	+105	+753.0%

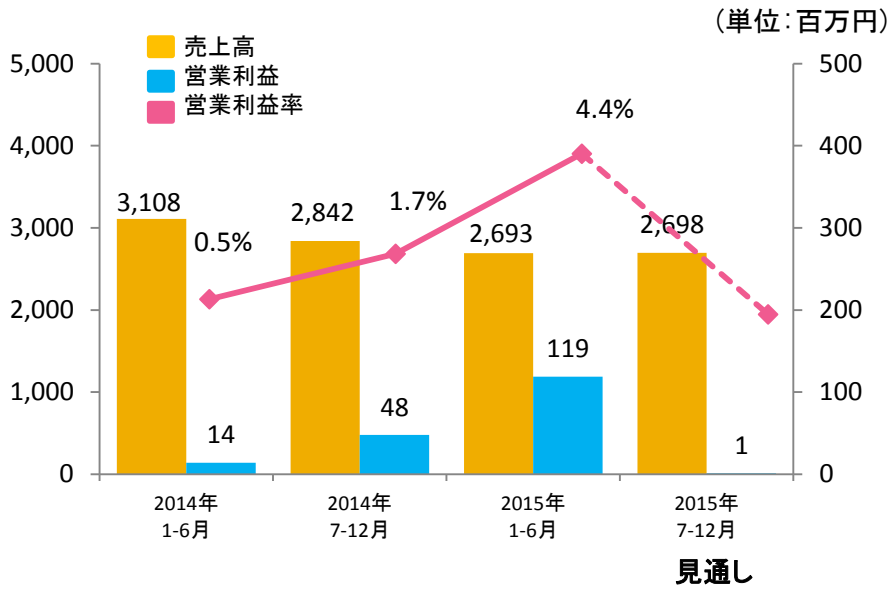
通期見通し			
2014年度	2015年度	増減	増減率
5,950	5,391	-559	-9.4%
62	120	+58	+93.5%

上期業績ハイライト

- 売上高：国内はオフセットインキ用樹脂を中心に売上数量が大幅に減少。
- 営業利益：国内は昨年度発生した原料価格高騰による価格ギャップ解消とコストダウン・合理化効果により増益。

2015年度見通し

- 売上高：上期に引き続き、オフセットインキ用樹脂販売は低迷、前年比9.4%の減収。
- 営業利益：昨年度比58百万円の改善であるが、下期は一部原料の値上がり等あって、厳しい収益環境を見込む。



Ⅳ. 事業別動向（化成品事業）

第2四半期実績				
(百万円)	2014年度（4−6月）	2015年度（1−6月）	増減	増減率
売上高	863	1,771	+908	+105.2%
営業利益	-34	219	+253	[黒字化]

通期見通し			
2014年度（4-12月）	2015年度（1-12月）	増減	増減率
2,558	3,508	+950	+37.1%
-92	351	+443	[黒字化]

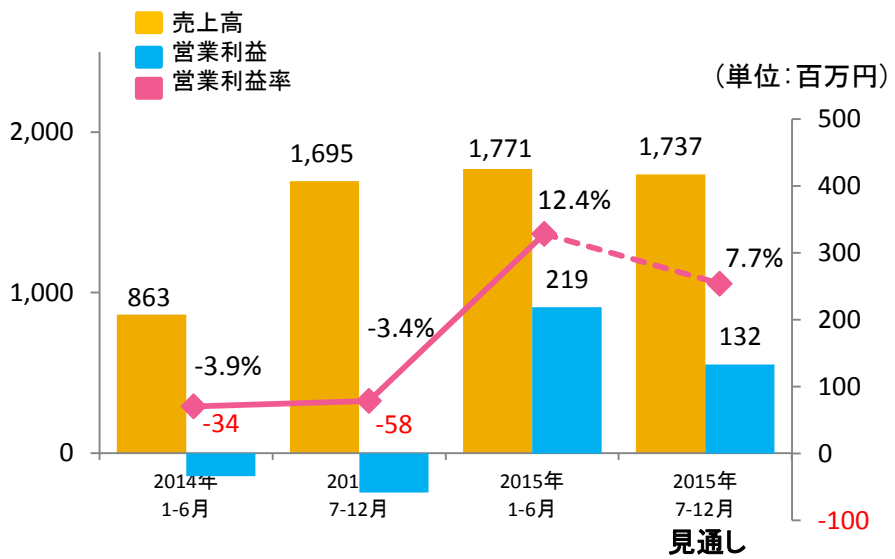
注：2014年度（4-12月の9カ月決算）に対する増減を表記しております。

上期業績ハイライト

- 売上高：円安を背景にした好調な輸出、電子材料用や化粧品向けなど、新規分野での販売が増加し増収。
- 営業利益：堅調な売上に加え、事業買収に伴い昨年度増加した減価償却負担が減少して、大幅な増益。

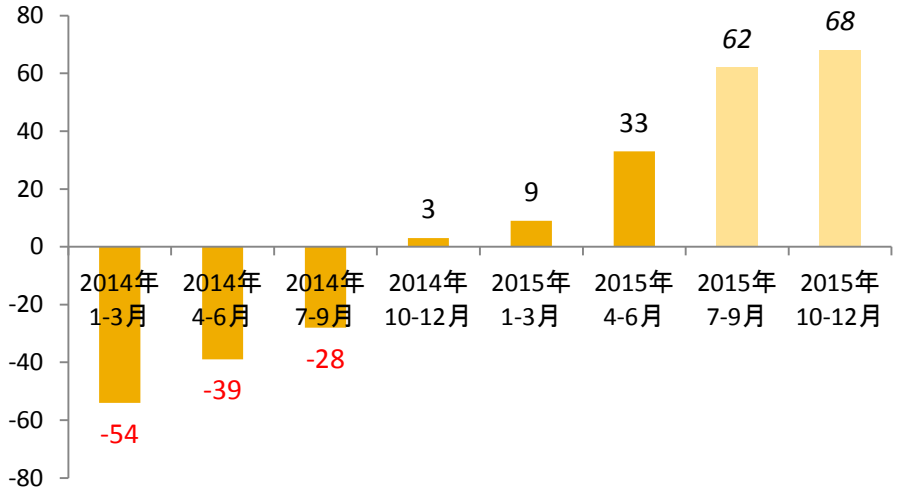
2015年度見通し

- 売上高：新たな用途での販売増継続等、下期も堅調な推移を見込む。
- 営業利益：一部上期に前倒し販売等あったものの、下期も堅調な収益環境が継続し、前年比で443百万円の大幅な収益改善を見込む。



Ⅳ．事業別動向（海外展開）

- 中国子会社の黒字定着



✓ 製紙用薬品の販売体制の強化、コストの削減による事業再構築

✓ 環境規制強化を追い風にした、水性インキ用樹脂の販売強化

- 東南アジア市場での展開
  - ✓ タイ、インドネシア、ベトナムをターゲットとした、当社製紙用薬品の特性を活かした、課題解決型のアプローチ（現地企業の紙製造処方の高度化への対応）

Ⅳ．事業別動向（総括）

（単位：百万円）

	2015年度 上半期実績						2015年度 通期見通し					
	売上高			営業利益			売上高			営業利益		
	2014年度（1−6月）	2015年度（1−6月）	増減	2014年度（1−6月）	2015年度（1−6月）	増減	2014年度	2015年度	増減	2014年度	2015年度	増減
製紙用薬品	7,531	7,636	+105	322	513	+191	15,460	15,731	+271	774	1,185	+411
国内	6,952	6,912	-40	414	458	+44	14,184	13,993	-191	881	1,069	+188
海外	691	812	+121	-93	42	+135	1,515	1,928	+413	-118	172	+290
調整	-112	-88	+24	1	13	+12	-238	-190	+48	11	-56	-67
樹脂	3,108	2,693	-415	14	119	+105	5,950	5,391	-559	62	120	+58
化成品	863	1,771	+908	-34	219	+253	2,558	3,508	+950	-92	351	+443
小計	11,504	12,100	+596	302	853	+551	23,970	24,630	+660	744	1,660	+916
共通（注）	-	-	-	-179	-228	-49	0	0	-	-424	-460	+36
連結合計	**11,504**	**12,100**	**+596**	**123**	**624**	**+502**	**23,970**	**24,630**	**+660**	**319**	**1,200**	**+881**

注：セグメント利益の共通部分は、主に報告セグメントに帰属しない研究開発費となっております。

基盤３事業の営業利益＝1,660百万円で、共通研究開発費を吸収

Ⅳ．事業別動向（新規事業:セルロースナノファイバー）

セルロースナノファイバー（CNF）
・植物の骨格成分
・軽量、高強度、熱による変形が少ない次世代バイオマス素材

用途開発検討

星光PMC
・CNFサンプル製造（竜ケ崎工場内）
（経産省イノベーション拠点立地推進事業）
・生産技術開発
・性能改良

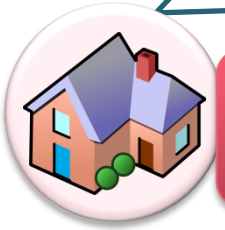
サンプル配布
変性セルロースパウダー
変性セルロース配合樹脂ペレット

フィードバック

プラスチック等を素材として使用する様々な企業
・実用物性評価
・ニーズとのマッチング

連携

日本再興戦略
産官学フォーラム
・ナノセルロースフォーラム
・ふじのくにCNFフォーラム
・部素材産業－CNF研究会 など



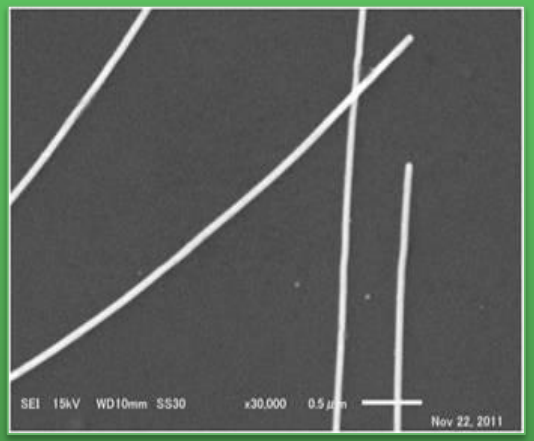
実用化

Ⅳ． 事業別動向（新規事業：銀ナノワイヤ）

銀ナノワイヤ

特長

・nmサイズの直径、μmサイズの長軸長
・高い導電性　～　電極および電気配線、大型ディスプレイ
・透明性　　～　タッチパネル等の透明導電性電極
・柔軟性　　～　フレキシブルディスプレイ　ウェアラブルデバイス



銀ナノワイヤ

銀ナノワイヤ生産設備

・千葉工場内に銀ナノワイヤ製造プラントを設置
・昨年よりサンプル出荷を開始　～　高品質な製品を安定供給

回路形成

タッチパネル

フレキシブルディスプレイ

Ⅳ. 事業別動向（新規事業：光学弾性樹脂）

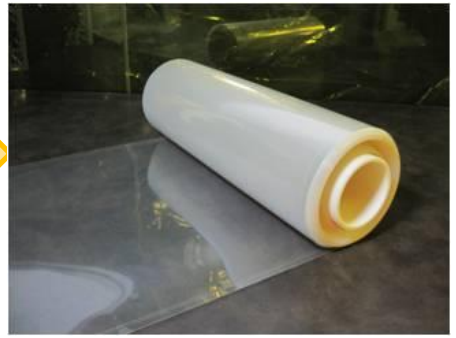
光学弾性樹脂（OCA）

特徴

・ウレタンアクリル樹脂をベースとした溶剤フリーの液状樹脂
・UV照射により硬化（溶剤乾燥工程不要）
・薄膜～厚膜（200μm以上）のOCAシートが容易に製造可能
・高い透明性、柔軟性、耐久性
・特殊ウレタン原料を採用、水バリア性に優れる

光学弾性樹脂
（OCA）

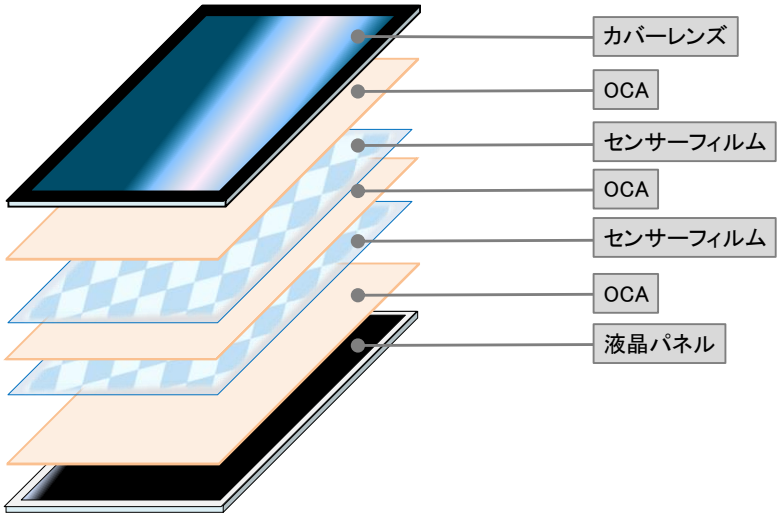
UV硬化



OCAシート
（厚み200μm）

用途

・カバーレンズ／タッチパネルモジュール貼り合わせ
・タッチパネル電極間貼り合わせ
・タッチパネルモジュール／液晶パネル貼り合わせ
・有機ELパネルや非ITO導電膜の貼り合わせ



Ⅴ．中期経営計画　「CS VISION-I」

- 「CS VISION-I」(～2015年12月) の基本方針
  - ✓ 選択と集中
  - ✓ 事業領域の拡大：地域～中国・東南アジア、分野：エレクトロニクス、再生可能な環境材料
  - ✓ 外部資源の活用：企業買収の推進（KJケミカルズ）
  - ✓ 筋肉質の企業体質へ

- 当社設立50周年にあたる2018年度を最終年度とする次期中期経営計画を今年度中に策定

	2015年12月期			
	CS VISION- Ⅰ		見通し	
	百万円	構成比	百万円	構成比
売上高（百万円）	28,780	100.0%	24,630	100.0%
既存事業	21,363	74.2%	19,194	77.9%
伸長事業	7,417	25.8%	5,436	22.1%
海外事業	3,113	10.8%	1,928	7.8%
新規事業	4,304	15.0%	3,508	14.3%
営業利益（百万円）	1,800	6.3%	1,200	4.9%

※営業利益の未達（1,800－1,200＝600）は、主として国内既存事業の売上未達によるものです。
伸長事業につきましては、M&A（KJケミカルズ社買収）などにより、進捗しつつあります。

ご清聴ありがとうございました

星光PMC株式会社